

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	加東市電子自治体推進計画策定委員会（第4回）
開催日時	平成29年3月24日(金) 15時00分から16時02分まで
開催場所	市庁舎402会議室
委員長の氏名（小和田 善之）	
出席及び欠席委員の氏名 櫻間 秀彦 ・ 勝田 憲弘 ・ 森 幹雄 ・ 森岡 伸寿（欠席） 長濱 正宏 ・ 北原 豊 ・ 澤野 俊一	
出席した事務局職員の氏名及びその職名 総務部長 時本 敏行 総務課 課 長 長田 徹 副課長 原田 幸広 ・ 主幹 藤井 嗣人 ・ 主査 小笠原 和慶	
傍聴者 0名	

会議結果

会議録署名委員 北原 豊 ・ 櫻間 秀彦

議 事

- (1) パブリックコメントの結果について
【審議資料】【提出意見】【回答案】【修正案】

事務局（案）で承諾

- (2) 答申について

※配布資料一覧については、最後頁に掲載

(1) パブリックコメントの結果について

委員長 今日、パブリックコメントに対して当委員会からの適切な対応を協議するのが1点。もう1点は意見内容を計画案にどう反映させるかです。では、事務局から説明願う。

事務局 — 説明 —

委員 住民票のコンビニ交付は4/1ですよ。戸籍の発行はどうなるのですか。

委員長 当計画では証明書(写)のコンビニ発行をすすめることとしている。ただし、どの証明書(写)をどういう時期(順)で発行していくかは、アクションプランで検討すべきかと思う。

委員 現行システムで7月にクラウド化するなら、以降のシステム改修時に再度費用が要るのではないか。一度に利用できるシステムにすべきでは。

委員長 費用の云々については、前回までで協議は終わっています。以前の資料から意見を言うべきではない。

委員 4に対しての意見です。P14の最後の文に同じような文言があるので、特に修正は不要だと思うが。

委員長 その議論は要るかと思う。AIやIoTやビッグデータという文言は最近の言葉で、まだ具体的なイメージもないし、これから根付くかどうか疑問です。

委員 他市ではAI技術を使って窓口業務に利用すると聞いている。

委員長 そのAIの解釈範囲(イメージ)も時代によって異なることから、具体策があるなら、その文言も有効かもしれないが。

委員 その文言を使う(活用)ことで市民にどう作用するかが大事。まだ見えないところが多い。ICTという文言で包括していると考える。

委員 私も現行のままの表現でまかなえると思うが。

委員 兵庫県の計画にもこうした文言が列記してあるのに、市の計画にも要るのではないか。

委員長 さきほどからのビッグデータとはどんなことを指すのか、具体のイメージが整っていない。市の計画にどう位置づけるか、明確化しづらい。AIも最近の「碁」の対戦等で有名になった程度で、生活の中でどう活用できるかはわからない。

委員 加東市民にどんな病気が多い、だとかデータ活用できるのでは。

委員長 それはビッグデータではない。これは不特定多数のデータの中から「なにか」の方向や、ある「もの」を導き出すといったもの。先ほどのものは住民調査です。具体的なイメージのない場合はAIやIoTはつかうべきでない。

委員 コンビニデータから加東市でどんなものがよく売れているかとかは。

委員長 それは民間企業のデータなので、市は利用できない。別のものです。

委員 むしろ、いまの表現(AIやIoTの表記がない)のほうが、のちのアクションプランに制限がかからないので良いのかもしれない。

委員長 AIやIoTはより具体的なものを検討する折に使用すべきかと思う。大きく包括する表現がICTだと考える。

では、①～④の意見について事務局（案）でどうですか。

（異議なし）

（２）答申について

事務局 次に今後のスケジュールについて説明します。

事務局 — 説明 —

委員長 計画（案）のなかで、「て、に、を、は」等の微調整があれば任せていただきたい。必要あれば、委員方にお諮りします。

では、これをもって委員会終了します。

— 閉 会 —

【配布資料】

資料番号	資料名称
審議資料	パブリックコメントの結果について
提出意見	加東市電子自治体推進計画（案）[基本計画]に対する意見提出様式
回答案	パブリックコメント意見についての加東市の考え方
修正案	加東市電子自治体推進計画（パブリックコメント修正案）